

排ガスシミュレーション結果について

各煙突高さにおける各汚染物質濃度の予測結果（以下、「予測結果」という。）の比較と基準値等との比較は表-1及び図-1、拡散希釈効果は表-2に示すとおりです。

予測結果は、全ての項目で煙突高さ59mが最大となり、煙突高さが高くなるにしたがって減少しています。ただし、煙突排ガスの影響濃度は、バックグラウンド濃度よりも1桁から3桁小さい値であり、その変動による環境濃度の変化はほとんどありません。

環境基準等と比較しても、全ての項目で基準値を下回っており、煙突排ガスの影響は極めて小さいものとなっています（基準値に対して0.04%~0.45%）。

表-1 大気質の予測結果

項目	煙突高さ	予測結果（最大着地濃度）			基準値等
		①影響濃度	②バックグラウンド濃度	計（①+②）	
二酸化硫黄 (SO ₂) (ppm)	59m	0.00007	0.00355	0.00362	日平均値が0.04ppm以下
	80m	0.00005		0.00360	
	100m	0.00004		0.00359	
二酸化窒素 (NO ₂) (ppm)	59m	0.00027	0.02949	0.02976	日平均値が0.04~0.06ppm以下
	80m	0.00018		0.02967	
	100m	0.00014		0.02963	
浮遊粒子状物質 (SPM) (mg/m ³)	59m	0.00004	0.05239	0.05243	日平均値が0.1mg/m ³ 以下
	80m	0.00003		0.05242	
	100m	0.00002		0.05241	
ダイオキシン類 (DXN) (pg-TEQ/m ³)	59m	0.000278	0.016	0.01628	年平均値が0.6pg-TEQ/m ³ 以下
	80m	0.000192		0.01619	
	100m	0.000150		0.01615	
水銀 (Hg) (μg/m ³)	59m	0.000167	0.0013	0.00147	年平均値が0.04μg/m ³ 以下
	80m	0.000115		0.00142	
	100m	0.000090		0.00139	

注1) 予測結果は二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質は日平均値、ダイオキシン類、水銀は年平均値である。
 注2) バックグラウンド濃度とは、煙突からの排ガスの影響を受ける前の現況の環境濃度であり、以下の値を用いた。
 SO₂、NO₂、SPM：厚木市中町のデータ(H27年度) DXN、Hg：厚木市役所のデータ(DXN:H28年度、Hg:H27年度)
 注3) SO₂、NO₂、SPMの日平均値は、日平均値の年間2%除外値または年間98%値を示す。

表-2 拡散希釈効果

煙突高さ	拡散希釈率
59m	約18万倍
80m	約26万倍
100m	約33万倍

拡散希釈率＝
 排出濃度 ÷ 影響濃度
 ※影響濃度は年平均値

【予測濃度（年平均値）の比較（ダイオキシン類の例）】

予測濃度（年平均値計）
 59m：0.01628
 80m：0.01619
 100m：0.01615
 測定可能な範囲

定量下限値（分析で測定できる範囲）である小数点第3位までの数値で比較すると、煙突高さによる差は出ません。

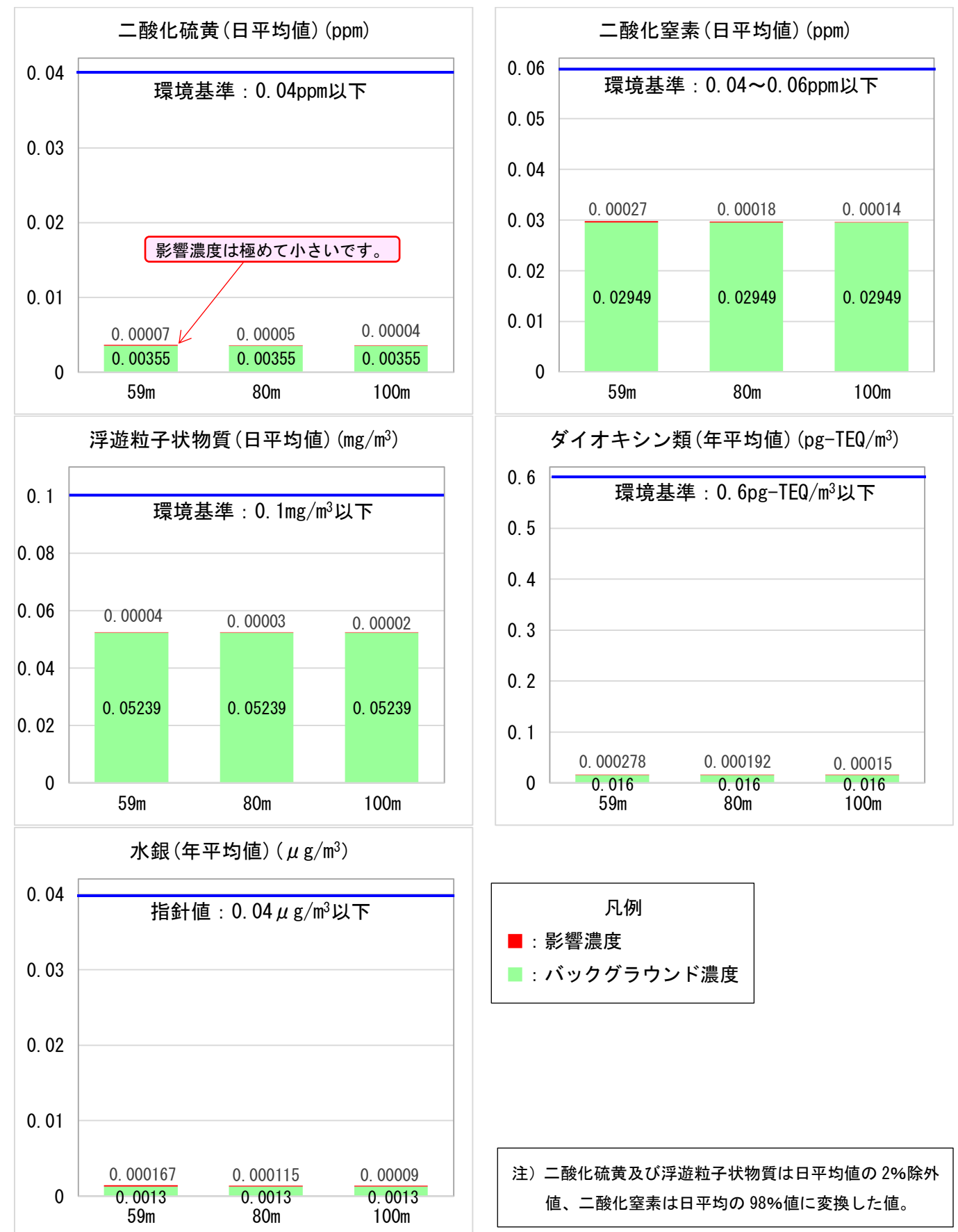


図-1 大気質の予測結果